第８回 校長会議あいさつ

R8.10.27　稲垣

2学期が佳境に入っています。学校訪問も再開しましたが、学校経営の刷新や授業改善が奏功し、教職員集団の勢いが窺われた学校がいくつもありました。また、先週は、一中小、白浜小、寺津中の研究発表会が盛会裏に終えられました。いずれの学校においても、児童生徒を中心に据え、「楽しくて力のつく授業」を子どもの姿で語ろうとする姿勢は、学校力と信頼感を向上させていくことにつながる確かなものでした。学校訪問や研究発表を通して改めて確認できたこともあります。学習規律の継続指導の成果です。話し合いにおいて「発言者の方を向いて聞く」「控えめにリアクションする」ことが定着した学級は、押しなべて温かな雰囲気の中で、集中した学習活動ができていました。形から入っていく指導なのですが、その真価を先生方にもう一度伝えていただきたいと思います。

昨今、SNS は言うまでもなく、メディアの中には、ジャーナリズム本来の公共性が危うくなっているものがあるように感じられます。社会不安を煽るだけで、人々の幸福に寄与しないニュースはいかがなものかと、疑念を抱きます。最近、学校教育に関する問題が注目され、ネガティブな報道は引きも切らずに取り上げられています。現実問題として、全国的に教員の不祥事や生徒指導上の対応瑕疵もあり、教育に携わる者全てが自戒を余儀なくされるところではあります。しかしながら、一方で、喫緊の国際学力調査(PISA は主に中 3 までの学力を測定している)において、日本は、OECD所属国内のトップだったにもかかわらず、義務教育が賞賛される記事は極めて少ないというのは忸怩たる思いです。そこでは、私たち教師の言葉は、社会的な説得力を減じるばかりです。しかしそれでも、教育は一期一会の営みです。目の前の子どもたちにとっては、学校生活の今は一度しかありません。私たちは、これまで以上に心を砕いて、子どものことを思い、学校の信頼感を維持していかなくてはなりません。

月始めの教頭会では、以下の三点についてお願いしました。

1 人との出会いを大切にすること

① 教育は信用商売 ※「情は味方 仇は敵」

② 辛い出会いこそ相手意識で丁寧に ※初動が肝心

③ ピンチの時ほど、ゆっくりと、守る順番を確かめる　※子どもたちが一番

2 明るい発信を心がけること

① 学校行事や児童会生徒会行事

② アントレプレナーシップ教育強化事業

③ その他さまざまな子どもたちの活躍

3 常に校内全体を把握し、先を見通して、円滑な学校運営を司ること

① 教職員一人一人の表情を捉える

② その場しのぎの対応は、後々に大きなトラブルにつながる

③ バタバタしたら次年度の計画を改善しておく